



よつばつうしん

〒567-0827 大阪府茨木市稲葉町4-5よつ葉ビル4階 Tel.072-630-5610 Fax.072-630-5606
yotuba-renrakukai@luck.ocn.ne.jp http://www.yotuba.gr.jp/ 発行責任者：中川健二

ともに暮らし、つくり、学び、考える

農場の一日—よつ葉の5農場から

出来事に事欠かない日々

能勢農場・寺本陽一郎

今回「能勢農場の日常」というお題をいただいた。といっても基本的には肥育牛180頭、育成牛70頭に養豚を少々。あと「こどもどうぶつえん」の動物たち16種類300匹弱いるので毎日朝、夕の餌やりが欠かせない大切な仕事。

老若男女で、あーだこーだ

瀬戸田農場・嶋吉孝保

瀬戸内の生口島に瀬戸田農場ができて20年、現在5名で日々の作業を行なっています。『老若男女』字の如く、偶然にも20代〜60代まで各年代一人ずついます。健康に牛を育て、無農薬でみかんを栽培する。そして今年から広島生き活き産直の会員さん向けの野菜づくりに取り組みはじめました。

もともと、畜産と柑橘栽培という自然相手の日々ですが、野菜作りを始めて、なお一層自然というものを強く感じる毎日となりました。天候、害虫、獣害…、思い通りにならないことがいたって普通ということが



能勢農場・春日育成牧場の仔牛

「牛が逃げたぞ〜」「車を当てるな!」「機械を壊すな!」「水道が破裂したぞ」「便所の水が出えへん」そんな言葉が飛び交う日々。きわめ付けは、春日牧場で牛が夜中に集団脱走し、近所の人たちや警察まで来て大騒ぎ。次の日、地方紙の3面を飾ってしまった。でも1年365日の共同生活の中で、ごまかしようのないダメな人間性が現れる現場は、今の社会の中ではむしろ健全だと感じている。そしてそんな自分と向き合い、乗り越えていくような人が1人でも育つ現場でありたいと思う。

私たちの会は能勢農場でのささやかな実践が始まりでした。「落ちこぼれが楽しく暮らす能勢農場」と配送のトラックに大書して街を走っていたことを思い出します。その後、食の仕事に関わりを深めてきたのですが、ずっと持ち続けている考え方のいくつかは、当時の農場での活動の中にあります。生産の現場を内部で持つことは私たちにとっては重要です。効率とは無縁の仕事作りですが、生産への関心呼び起こす、研修、交流の場などさまざまに活用し、また、モノの売り買いを超えた次元で物事を考えることにも供します。(編集部・鈴木)

多くの仲間が援農に

世羅協同農場・近藤巨

今年は6月より現在もたぐさんの仲間が援農にきてくれています。経営の柱である麦の収穫と乾燥は何とかが終了しました。これから等級検査のために再乾燥と選別作業を行います。並行してトマトの管理作業を行っていますが、葉カビ病が発生し、茎や実に障害がでてきました。葉を散布し、経過を観察するしか

収穫以外はもっぱらT.T.P. (天天下トマト)

北摂協同農場・藤井哲

日中は30度を下回ることはない猛暑、とても作業ができる状況ではないので、サマータイムを実施している。朝6時に集合、ナス、ピーマン、アイコなどを収穫して袋詰めが終わるのがだいたい9時から10時頃。その後12時まで農作業を継続していったん終了。4時頃から再開し、7時頃に終わるといった日々である。収穫以外の農作業といえ

ば、もっぱらT.T.P.「天天下トマトプロジェクト」の略で、能勢の天王地区の冷涼な気候を利用して、夏秋トマトを作ろうという計画のこと。トマト以外にもインゲンや芽キャベツなども栽培、広大な畑の草刈等も

した。納期は間もなくです。苦戦しているタカノツメの販売ですが、やさか共同農場のおかげで製品在庫は0となり半製品が残り200キロほどになりました。これからはサツマイモ畑の草引きが待っています。

「声をかけ合う」ことを大切に

別院協同農場・横山茂幸

別院協同農場が地元地域農業の支えを目的に設立されて早くも3年になりました。地域のいろんな農家さんに助けをいただきながら、少しづつですが、安定してきたように思えます。農場の一日は、直営圃場を